

答申の主な内容について

構成（案）

I 次期計画の策定に当たって

- 1 現計画の進捗状況
- 2 現計画の評価
- 3 国等の動向
- 4 今後の課題

II 次期計画の方向性

- 1 基本目標
- 2 基本方針
- 3 管理目標・指標

III 次期計画で重点的に取り組むべき事項

- 1 3 R のさらなる推進
- 2 高齢化等今後の社会への対応
- 3 事業ごみの減量に向けた取組推進

IV 次期計画の策定において留意すべき視点

- 1 ■ ■
- 2 ■ ■
- 3 ■ ■
- … ■ ■

I 次期計画の策定に当たって

- 1 現計画の進捗状況：一般廃棄物の排出状況、現計画の主な取組、ごみ量管理目標の達成状況等の整理
- 2 現計画の評価：現計画の評価のとりまとめ
- 3 国等の動向：循環型社会形成推進基本計画、廃棄物処理法基本方針、札幌市まちづくり戦略ビジョン、札幌市環境基本計画等による今後の方向性の整理
- 4 今後の課題：札幌市の現状と国の動向等を踏まえた課題の整理
 - ・ 2 R（リデュース・リユース）等ごみ減量に向けた取組の推進
 - ・ 超高齢社会への対応
 - ・ 市民、事業者、行政の連携
 - ・ 大規模災害に備えた廃棄物処理システムの強靱化 等

II 次期計画の方向性

現計画をベースに、取組のさらなる強化や、国等の方針や今後予想される社会動向を踏まえ、新たに取り入れるべき事項を追加

- 1 基本目標：循環型社会の実現を基本的な考え方とし、未来志向や市民の取組意欲がわく表現を取り入れる
- 2 基本方針：以下の 4 つの考え方を取り入れる
 - 3 R のさらなる推進
 - リデュース（排出抑制）・リユース（再使用）の 2 R を優先した取組
 - リサイクル（再生利用）における分別・排出の質の向上、未利用資源の活用
 - 市民・事業者・NPO 等との連携
 - 関係団体や事業者との連携・協力によるごみ減量・資源化の促進
 - 行政が地域に精通している NPO 等と連携し、市民と事業者のコーディネーターの役割を担う
 - 効率性の向上
 - 天然資源消費量の抑制や温室効果ガス排出量の削減などの環境効率性
 - リサイクルや廃棄物の適正処分に関わるコスト効率性、エネルギー効率性
 - 安全・安心
 - 大規模災害に備え、近隣市町村との連携を含めた廃棄物処理システムの強靱化
- 3 管理目標・指標：以下の 3 つの考え方を取り入れる
 - 2 R の取組を評価するため、資源物を含め廃棄物総量を削減する目標
 - 市民や事業者の取組を評価する視点に立った目標
 - コスト効率化やエネルギー効率化の視点に立った目標

III 次期計画で重点的に取り組むべき事項

- 1 3 R のさらなる推進
 - 2 R（リデュース、リユース）の取組推進
 - ・ リデュースを促すための取組
 - ・ リユース機会の提供
 - ・ 継続的な食品ロス対策
 - リサイクルの取組推進
 - ・ 資源回収の促進
 - ・ 分別・排出ルール of 周知・徹底
 - ・ 市民が行う堆肥化への取組支援
- 2 高齢化等今後の社会への対応
 - ・ 高齢者への対応
 - ・ 今後の社会に対応した資源回収方法
- 3 事業ごみの減量に向けた取組推進
 - ・ 事業者の自主的なごみ減量への取組
 - ・ 事業者による分別・資源化の促進

IV 次期計画の策定において留意すべき視点

※「重点的な取組事項」以外に次期計画の策定において留意すべき視点を整理

【参考】前審議会の答申（H25.7）では、以下の内容が盛り込まれた。

①清掃事業の効率化 収集業務や廃棄物処理施設の運営体制の見直し	④一般廃棄物の広域処理の検討 近隣市町村からの焼却ごみの受入や近隣市町村への処理委託
②市民サービスのさらなる向上 ごみステーションを管理しやすい環境づくりやさわやか収集の拡大	⑤大規模災害対策 災害時のごみ（がれき）受入体制の構築
③民間のインフラを活用した一般廃棄物の処理 焼却灰リサイクルの推進	⑥高効率発電など廃棄物のエネルギー利用の促進 清掃工場のエネルギー供給施設としてのさらなる機能強化